

写真 ニュース

発行：埼玉県生活協同組合連合会

埼玉県のマスコット コボトン



*画像:ビニールハウスの撤去作業にあたる生協職員(深谷市にて)

Top News

県内生協は 2月雪害で被害を受けた県内産直産地への支援活動を続けています

県内の生協は、被害を受けた産地の一日も早い復興を願い、取引産地への職員の派遣やお見舞金を贈呈するなど、支援活動をおこなっています。コープネットグループは、3月にJA甘楽富岡(群馬県富岡市)に述べ50人の職員を派遣したほか、4月からは、埼玉産直センター(埼玉県深谷市)の要請に応え、職員の派遣を行いました。パルシステム埼玉、東都生協も、埼玉県北部を中心に、それぞれ役員延べ35名、延べ12名を派遣して提携産地でのビニールハウスの撤去等の作業(4月～)、生活クラブも坂戸農場の倒壊鶏舎の撤去作業(2月～)にあたりました。

6/19 埼玉県生協連 第43回通常総会を開催しました

埼玉県生協連の第43回通常総会を埼玉会館(さいたま市浦和区)で開催しました。当日は会員から41(内書面出席9)名の総会代議員が出席し、来賓として埼玉県民生活部消費生活課長 竹中健司様、JA埼玉県中央会 常務理事 矢作俊信様、埼玉県地域婦人会連合会 会長 柿沼トミ子様よりご挨拶をいただきました。岩岡会長理事より、第1号議案から第5号議案まで一括提案され、全ての議案が承認されました。



6/20 埼玉県委託事業 2014年度第1回県内消費者団体交流会 地域で自立した消費者活動推進へ、 県内の消費者団体が交流



今年度第1回の消費者団体交流会が、埼玉会館(さいたま市)に県内の19の消費者団体47人が参加し、開催されました。地域での消費者行政充実と連携が課題となっている中、埼玉弁護士会前会長の池本誠司弁護士が、市町村消費者行政の機能と地域体制づくりの課題について講演し、その後、グループで交流しました。

5/26 第1回食の安全オンブズ会議 国民生活センター松本理事長を囲み 「食品の新たな機能性表示制度」を学習



5月26日(月)、埼玉県生協連会議室で2014年度第1回食の安全オンブズ会議が開かれました。消費者団体と県生協連など8団体17人が参加し、独立行政法人国民生活センターから理事長 松本恒雄さんを講師に「食品の新たな機能性表示制度」の現状と問題点について学びました。

健康食品表示の新たな仕組みづくりがすすむ中、消費者の視点からより望ましい仕組みにしていく上でのポイントをわかりやすくお話いただきました。

5/27 第50回埼玉県消費者大会 第1回プレ学習会 「現場の方から聞くこれからの 医療・介護」が開催されました



10月に開催される第50回埼玉県消費者大会を前に、大会に向けた第1回プレ学習会が与野本町コミュニティセンター多目的室で開催されました。医療生協さいたま生活協同組合本部けんこう文化部の川嶋芳男さんを講師に150人が参加し、2015年介護保険法改正を前に、これからの医療と介護を考えました。

6/10 2014年度埼玉県生協連 新エネルギー検討会が スタートしました



電源確保と新電力事業の展開を図ることを検討する、新エネルギー研究会の第1回研究会が埼玉県生協連会議室で会員6生協から10名が出席して開催されました。昨年度の再生可能エネルギー研究会を受けて、発足したもので、今年度のすすめ方を確認しました。新電力事業の取り組み例として「パルシステム東京がつくる新電力事業と目指す姿」と題し、パルシステム東京守屋由紀枝さんに講演いただきました。

広がる県内生協の 多彩な活動

コープみらい

「コープみらい たべる、たいせつ(食育)」 田んぼのがっこう・お米作り体験(田植え)

6月1日、川島町で子ども49人を含む29家族104人が「お米作り体験(田植え)」に参加し、「彩のかがやき」の苗を植えました。「田んぼのがっこう」は、自然とのふれあいや収穫の喜びを親子で体験し、食べ物大切さを学ぶもので、田植えのほか、生きものさがしや稲刈り、収穫祭を行います。川島町での開催は、JA埼玉中央のご協力により今年で23年目を迎え、多くの親子に参加いただいています。

画像左:「苗をまっすぐに植えるのが難しかった」などの声が寄せられました
画像右:生産者の皆さんから植え方についてわかりやすく教わりました



パルシステム埼玉

今年も田んぼ交流が 始まりました

今年も岩槻区と吉川市で、ルッコラや長ねぎ、小松菜など、パルシステムのエコ野菜を栽培する南埼玉産直ネットワークとの田んぼ交流が始まりました。晴天に恵まれた5月31日、23家族73名が参加して田植を行いました。最初は慎重に苗を植えていた方たちも時間が経つにつれ手際よく作業をすすめていきました。今後は10月の稲刈りまで、草取りや生きもの観察を通じて、農作物を育てる苦労や環境保全型農業への理解を深めます。

画像大:おいしいお米になりますように 画像小:子どもたちががんばりました



生活クラブ生協

7月は「シャボン玉月間」。 組合員が機関紙でお知らせ!

機関紙「スピカ」は、組合員が編集に携わり、自ら取材も行って原稿も書いています。今回は「シャボン玉月間」絡みで「せっけんキング」を取材し掲載する企画。取材は、素材と洗濯表示のアンマッチ、監督省庁の違いで表示が違い、洗濯を選択するなどのお話しに洗濯の実演を加えて2時間を超え、まとめられた原稿は1.5頁となりました。配布後に石けんの使い方のコツの一つとして保存されるのを期待しています。

*シャボン玉月間 石けんの利用を進める生協、漁協、農協などの協同組合で毎年7月をシャボン玉月間と定めて、石けんの利用促進をよびかける活動をおこなっています。



医療生協さいたま

ウォーキングで健康づくり ～健康ウォークフェス開催

5月25日、道満グリーンパーク(戸田市)で「健康ウォークフェスタ」を行い、ウォーキングに900人、その他のイベントを含め全体で約2000人が参加しました。埼玉県物産観光協会、戸田市などの後援を受け、正しいウォーキングやノルディックウォーキングの講習、体を使ったゲームやゆるキャラの登場、抽選会、飲食販売など、子ども連れから高齢者まで、幅広い世代が楽しみました。



子どものその保育生協

お父さんと山登り

6月1日、お父さんが子育てに関わる機会を作ろうと、「お父さんと遊ぼう」企画を行いました。その中心は理事のお父さんたち。今回は、「官の倉山」へ山登り。3歳児から年長児、小学生を含め約450名の父子だけでガレキや鎖場のある険しい山を登っていきます。初めて登る3歳児は疲れたと泣き、駄々をこねる子どもが多く、そんな我が子を励ましなが、登り終えたときの親子の笑顔は最高でした。また、来年も登ろう!



さいたま高齢協

高齢協連の 第13回新潟総会に参加しました

6月7日に日本高齢者生活協同組合連合会の第13回新潟総会が新潟市民プラザ(NEXT21)で開催され、生活協同組合・さいたま高齢協から5名が参加しました。30人のモデルが繰り広げる華麗な「和のリフォームファッションショー」のオープニングの後、第13回通常総会がおこなわれました。総会翌日の8日には、ささえあい新潟フェスタ2014が開催されました。参加した5名の職員は小規模多機能型居宅介護サービスの「ささえ愛いしやま」(最寄駅:越後石山)の見学もおこないました。



コープネット事業連合

産地見学や学習会に 組合員約2万9千人が参加

コープネット事業連合と会員6生協が2013年度に企画・開催した、産地工場見学や商品学習会などに、6千人以上の子どもを含む約2万9千人の組合員が参加しました。2013年度の特徴として、工場見学(コープネットの物流施設などを含む)に参加する子どもが増え、コープで取り扱う商品の商品検査や食品添加物など食の安全について学ぶ「政策関連学習会」に関心が集まりました。

画像:JAと協力して行なった、稲刈り体験

